

うぶね[鵜舟] 2018年2月発行

岐阜大学医学部附属病院広報誌

Vol.35

Gifu University Hospital

うぶね



病院長挨拶
「鈴木ちなみ × 病院長」対談

特集1
高次救命治療センター

特集2
最善の医療へ導く臨床倫理

連載
病院を支える仲間たち Vol.3-4

お知らせ&NEWS
クリスマスパーティーなど



特別対談

鈴木ちなみ × 病院長

日本の救急医療をリードする病院は、いかにしてつくられたのか！
その要となる高次救命治療センターを解説。

新年のご挨拶を申し上げます。

今年は戌年ということで、昨年の酉年の時に収穫したものを活用する収穫後の状態にある年です。最高のサービスを患者に届ける最高の病院の確立、高度医療拠点としての機能強化と地域医療への貢献を目指し、2018年も岐阜大学医学部附属病院は邁進したいと思います。今年も皆さまのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

今年は岐阜の魅力を発信している多治見市出身でモデルの鈴木ちなみさんと小倉真治病院長が、救急医療やドクターヘリ、患者サービスなどについて意見を交わしました。

合言葉は「その1分を削り出せ」

鈴木 ドクターヘリを見せていただきましたが、何機あるんですか。

小倉 岐阜県内では1機です。全国に50機ほどありますが、各務原市で製造された全国で唯一の地産地消のヘリです(笑)。大事なことは、現場にドクターが駆け付けられる体制を整えていることです。

鈴木 病院の中では、ドクターヘリはどの部署に属しているんですか。

小倉 岐阜大学の高次救命治療センター内の救急部門、集中治療部門、透析部門と同じように、ドクターヘリ部門があります。

鈴木 透析や集中治療と同じ部署とは意外でした。

小倉 重要さですね。病院の前、病院の入口、その後の集中治療や手術がバラバラだと、それぞれで1分の隙間が生じ、死亡率は上がっていきま

すからね。

鈴木 どれくらい死亡率は高くなっていくんですか。

小倉 1分で2%ずつ上がります。「1分を削り出せ」というのが、私たちのテーマです。

鈴木 それくらい秒単位で命と向き合っているんですね。

小倉 例えば、高山から岐阜まで車で運ぶと2時間ですが、ヘリであれば25分ですからね。

鈴木 命の助かる可能性も倍になりますよね。

小倉 プロの目から見て、控えめに言って、年間30人から50人は、ドクターヘリの出動で命が助かったとか社会復帰できたという患者さんです。

初めの1分で人生が変わります。

鈴木 ドクターヘリに乗ったときから救助が始まるんですね。

小倉 バイロットも1分を削り出そうという気持ちでいます。ただ、安全運行を第一に考えています。

鈴木 ドクターヘリに乗るスタッフの資質は何ですか。

小倉 決断力ですね。少しでも迷ったらすぐに1分経ってしまいますからね。



鈴木 ドクターヘリに乗るスタッフの資質は何ですか。
小倉 決断力ですね。少しでも迷ったらすぐに1分経ってしまいますからね。

最高の患者サービスを 患者さんに提供する 最高の病院を目指して…



岐阜県飛騨・美濃観光大使

鈴木ちなみ

病院長・高次救命治療センター長(兼務)

小倉真治

大学病院は医療人材を育てるところ

鈴木 素朴な疑問ですが、一般の病院と大学病院との違いは。

小倉 大学病院は人材を育てる病院です。学生(研修医)だけでなく、医師も看護師も育てています。

鈴木 ほかの病院では人員的に手薄でも、大学病院では底上げされているんですね。

小倉 患者サービスを充実させるために、スタッフに対して、コーチング研修も行っています。

鈴木 企業で研修を行うイメージはありますが、病院でもされているんですね。

小倉 丸3年になります。サービスを提供するには、顧客満足度を上げることが大切です。そのためには、従業員の満足度を上げないとけません。知識や技術を上げるだけでなく、チーム医療ですので、お互いのコミュニケーションがしっかり図られているかどうか、人間関係が良好かどうかという観点を改善してきました。

鈴木 大学病院が体制を整えて頑張ったとしても、県や地域、施設との連携がないとうまくいかないですね。

小倉 岐阜県は大学病院を頂点として、たらい回しが起こらない医療連携システムが確立されています。また、救急隊員は最も大事なパートナーになりますので、その教育も大学病院を中心に行っています。

岐阜の救急医療体制を構築

鈴木 岐阜県は救急医療の最先端にあると聞きましたが、どうして小倉先生は岐阜の地で救急医療に力を入れてこられたのですか。

小倉 15年ほど前、岐阜県は救急医療のへき地と言われていました。「岐阜だけがするな」とまで揶揄されていたくらいです。岐阜の救急医療体制を構築するために力を注いできました。

鈴木 そもそも救急は、何科が担当になるんですか。

小倉 今年から専門医制度が新しく始まりますが、救急科は内科や外科と同じように基本領域の一つです。

鈴木 どれくらいのスタッフがいらっしゃいますか。

小倉 大学病院には、プロフェッショナルである救急専門医が20人ほど、全体で30人近い医師が専従しています。

鈴木 たくさんの医療スタッフがいらっしゃるんですね。

小倉 多くの人材はここから育っていきます。

鈴木 岐阜県全体、全国に広がっていくんですね。

小倉 底上げをしているところです。

岐阜大学は救急医療の3つの柱である「病院の前」「病院の入口」「病院内での集中治療、手術」という3部門がしっかりとつながり、すべてが充実しています。中部地方では断トツで、全国的にも3本の指に入ると自負しています。



「心が豊かになる」ような病院に

鈴木 岐阜大学病院をどのようにしていきたいという展望はお持ちですか。

小倉 病院長としてビジョンの1行目に「最高のサービスを患者さんに提供する最高の病院」を掲げていますが、しっかり実行していくことです。

鈴木 サービスなんですか。

小倉 病院の英語表記であるホスピタルは、ホスピタリティー(おもてなし)から来ています。まさにサービスで、大学病院であれば、高度の医療は当たり前なんです。そのことをどうやって患者さんに理解していただきながら、良い病院と感じていただけるかを大事にしています。

鈴木 具体的には、どのようなサービスをされてきたんですか。

小倉 例えば、去年は病院内でプラネタリウムを行いました。その分野では世界的にも有名な大平貴之さんを招いて、音楽も流しながら天体ショーを楽しんでいただきました。

鈴木 長良川で行われる花火大会の中継もされたんですね。

小倉 外出できない患者さんのために企画しました。看護師が浴衣を着たり、屋台を出したりしました。

鈴木 病院の雰囲気が変わりますよね。

小倉 医師も患者さんも一体感が生まれましたね。

鈴木 第一印象は、医療が滞りなく進めることができる病院と思っていましたが、医療スタッフの質を上げることや、通われている患者さんにも楽しんでもらい、「また来たい」「心が豊かになれる」というプラスアルファの要素がたくさんある病院というのを感じました。



キーワードは「岐阜に住んでいて良かった」

鈴木 今後、岐阜県の救急医療、岐阜大学病院のドクターヘリ運用をどのように展開されていきたいですか。

小倉 ドクターヘリは飛ぶことができない条件や時間帯があります。そのために、4月からはドクターカーの運用も始まります。少しでも隙間ができないように努めていきたいと思っています。

鈴木 岐阜県は医療に関して、本当に恵まれた環境にあるんですね。

小倉 キーワードは「岐阜に住んでいて良かった」ですね。

鈴木 東海地方は愛知県が中心に思われがちですが、岐阜県が医療に強いということを知ることができて勉強になりました。医療の主要都市としてこれからも頑張りたいと思いました。

小倉 鈴木ちなみさんには今後、地元出身のスターとして、ぜひ岐阜県を盛り上げていただきたいです。ありがとうございました。

Special Crosstalk



高次救命治療センターを支える 各セクションのご紹介

Gifu University Advanced Critical Care Center

やまだ のりあき

ドクターヘリ部門長 山田 法顕



ドクターヘリ部門は、2017年4月に高次救命治療センターに新たに加わった部門です。これまで当センター内にはドクターヘリ担当者としての医師は在籍しておりましたが、より効果的・効率的に運行することを目指し、病院内外での連絡調整にあたる「窓口」として、活動を始めています。

高次救命治療センターは、2011年2月に岐阜県から県ドクターヘリの基地病院としての指定・委託を頂いてから、岐阜県ドクターヘリの運行に当たって参りました。現在では年間約500件の運行に関わっており、約半数が救急現場への出動、40%が病院間搬送、約10%は救急隊が評価したところ軽症であったなどの理由でキャンセルとなっております。当部門の試算では年間700件程度の運行は可能と考えられ、まだまだドクターヘリの活躍できる余地はあると考えています。出動するべきなのにできなかった、しなかったという例を限りなく0にすべく、今後も努力していきたいと考えています。

全国的には、一定の基準はあるものの、地域の医療事情に合わせた運用・運行が望まれます。「岐阜スタイル」のドクターヘリのあり方をこれから発展させていきたいと思っておりますので、ドクターヘリについてのご意見・質問は是非ドクターヘリ部門へお寄せください。



なち しょう

救急部門長 名知 祥



高次救命治療センターの救急部門は平成18年から中部地区で2番目、岐阜で唯一の高度救命救急センター（全国で38施設）として認定されています。

当センターでは救急科指導医6名（岐阜県内に8名）、救急専門医10名（岐阜県内に63名）を含む約30名のスタッフで診療にあたり、24時間365日岐阜県内の救急医療の「最後の砦」として、重症患者を受け入れています。

当センターの救急搬送は年間約1600件と数は地域内の他の医療機関より少ないですが、入院率は約80%を超えていて、そのうち高度救命救急センター病棟への入院は半分以上です。重症の方の割合が大変高く、他の救命救急センターや地域基幹病院で対応不可能な患者の転院が多いのも特徴です。一刻一秒を争う最重症の方が多く、知識・スキル・経験を持った救急科指導医・専門医を中心としたスタッフ、重症の患者の対応に習熟した救急看護認定看護師、集中ケア認定看護師を中心とした看護師など多職種で、治療チーム一丸となって救急蘇生、集中治療を救急外来から行っています。

特に外傷に関しては、年間約300件が搬送されてきており、その多くが重症外傷です。救急科指導医・専門医がイニシアチブをとって治療方針を決定し、必要に応じて他科の専門チームとも共同で治療に当たっています。その他の重症疾患についても、高度な技術ときめ細やかな集学的治療につなぐ急性期管理を速やかにスタートできるシステムになっています。



どい ともあき

集中治療 (ICU) 部門長 土井 智章



「うぶね」をご覧の皆様。皆様が持たれている集中治療室、いわゆるICU(Intensive Care Unit)のイメージはどのようなものでしょうか?「重症な患者さんが入室している」「閉ざされた空間で近寄り難い」「人工呼吸器などの医療機器がところ狭しと並んでいて、それらの機器がピコピコと音を立てている」そのようなイメージでしょうか?

当院ICUはイメージ通り、重症患者さんを対象とした部門です。当院では高次救命治療センターの一部門として集中治療部門があり、主に大手術後の患者さんの全身管理を行ったり、院内の病棟から容態が悪くなった患者さんを入室させて治療を行いますので、院内ICUと呼ばれています。院内ICUは現在6床で運用されておりますが、ところ狭しという感じでは無く、多くの医療機器が置ける様に広いスペースが確保されています。感染管理上、入室を一部制限してはおりますが、決して閉ざされた空間というわけでは無く、もちろん面会もできます。

当院の院内ICUの最大の特徴は、高次救命治療センターのICU専従医師が24時間、365日必ずICU内に常駐しており、各診療科と協力の上、治療にあたっていることです。ICU専従医師たちは日本集中治療医学会専門医を中心に構成されており、当院は同学会専門医研修施設として認定されていますので、質の高い集中治療を提供しています。

健康第一で院内ICUとご縁が無いことが一番ですが、もしもご縁があった場合は我々が一生懸命対応させていただきます。



ながや そういちろう

血液浄化治療部門長 長屋 聡一郎



血液浄化治療部門は、東海地区ならびに岐阜県内の急性期重症疾患・困難手術例が集中して入院する高次医療機関である岐阜大学医学部附属病院にて、急性期医療に特化した血液浄化治療部門となっております。周術期・急性期透析を中心に、血液浄化治療部門は運営されております。

主な対象症例は以下の通りです。

- 岐阜大学医学部附属病院での各種疾患の治療・手術等のために、他院から転院してきた既に血液浄化療法を実施中の慢性腎不全症例。
- 腎移植治療に関連して入院する慢性腎不全症例。
- 全身状態が比較的安定している急性腎障害症例。
- 慢性維持透析の導入と初期治療。
- 血液透析以外の血液浄化療法が必要と判断された症例。
(例えば白血球除去療法など。この場合、外来患者も対象となります。)
※なお、当院では、外来維持透析は、実施しておりません。



更に、高次救命治療センターでは、院内ICU・高度救命救急センターにて、急性腎障害・中毒・敗血症・多臓器不全症例などにおいて、救急・集中治療に不可欠な急性血液浄化療法を積極的に実施しており、血液浄化治療部門は、その治療も行っております。

※写真は、患者様の承諾を得て掲載しております。

日本と岐阜の救急医療のために、これからもがんばってください!

鈴木ちなみさん出演の人気テレビ番組

司会を、鈴木ちなみさんと濱口優さんが担当している『アールサタ』は、メ〜テレで毎週土曜日の朝6時30分から放送されている人気番組です。お出かけ・グルメ・ファッション・エンタメなど、情報満載です。ぜひご覧ください!

最善の医療へ導く臨床倫理

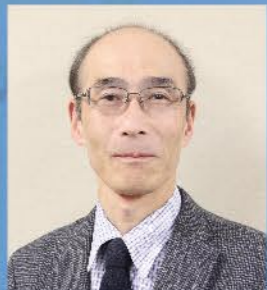
岐阜大学医学部附属病院
臨床倫理室長

つかた ゆきよし
塚田 敬義



臨床倫理室は長年、医学研究等倫理審査委員会が行っていた「生命倫理を伴う緊急医療行為の実施協議」を移行し、特定機能病院の承認要件の改正に伴い新設しなければならない部門(右頁参照)を加えて、医学部附属病院における医療従事者の倫理の質の向上を図ることを目的に設置されています。

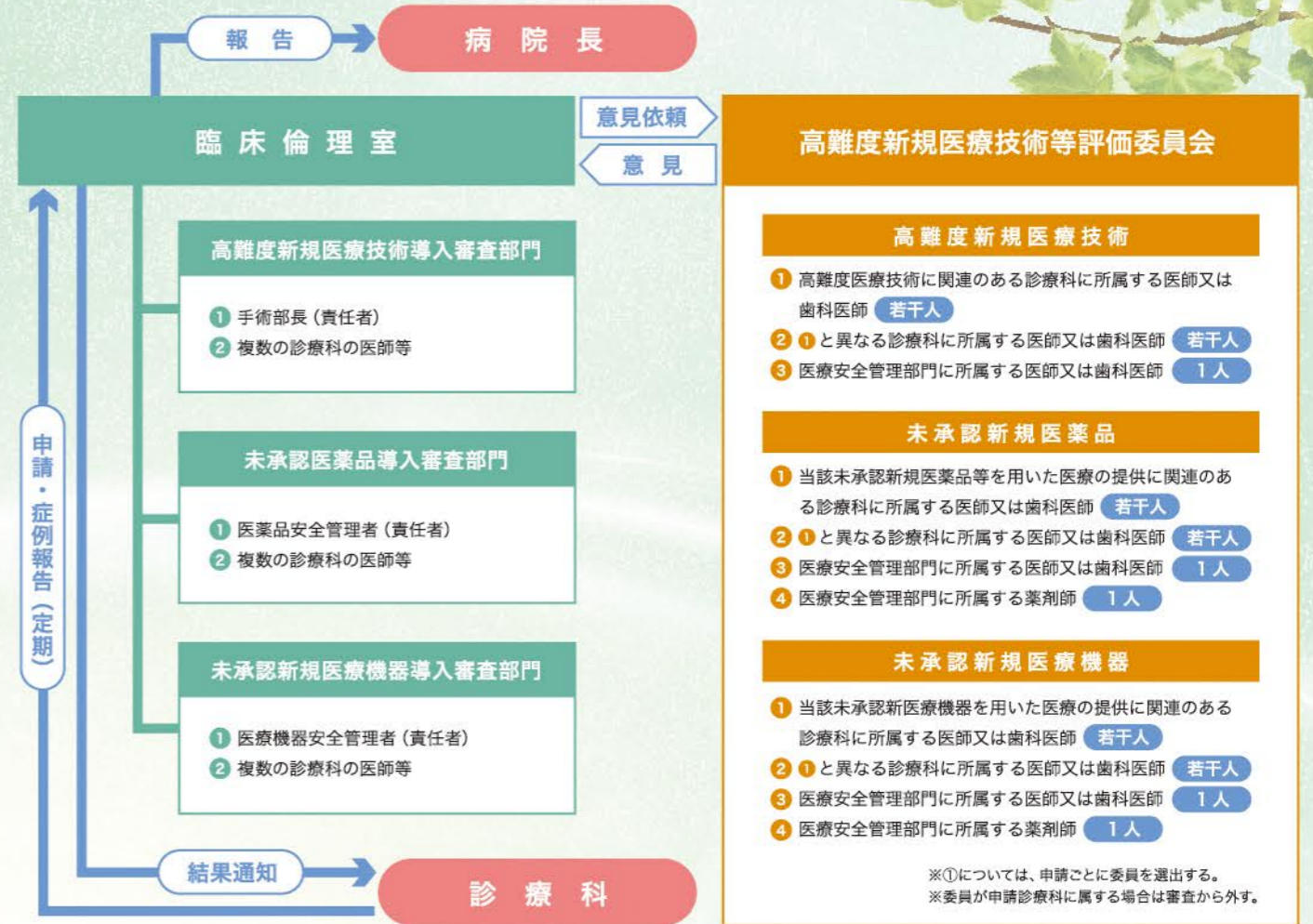
その業務は1. 生命倫理を伴う緊急医療行為の実施協議(略称:緊急協議)に関すること、2. 臨床倫理に関する事例の収集及び対応に関すること、3. インフォームド・コンセントの適切な実施に関すること、4. 臨床倫理に係る教育・研修に関すること、5. 高難度新規医療技術等の提供の適否等に関すること、その他医療従事者の倫理の質の向上に関することです。特に医薬品・医療機器の適応外使用についての「緊急協議」は本院の特色であります。医療法等の改正以前より取り組んでいた業務であり新規使用以外の日常診療における迅速な対応を心懸け、医療行為の質の向上、本院のガバナンスに寄与すべく多職種連携により活動をしています。



PROFILE 岐阜大学医学系研究科再生医学専攻 教授
岐阜大学医学部附属病院 臨床倫理室長

昭和35年1月東京生まれ。
法政大学法学部卒業、京都大学法学部民法第3講座研修員、同大学医学部解剖学第3講座研修員、外科学第1講座(後に腫瘍外科)研究生・研修員・非常勤講師、同大学医療技術短大部非常勤講師、大阪歯科大学講師(法学教室主任)を経て、平成14年4月に岐阜大学大学院教授(倫理・社会医学部門主任)として赴任(平成16年より医学系倫理・社会医学分野に名称変更)し、医学研究等倫理審査委員会委員長を務め現在に至る。平成28年8月臨床倫理室長就任。

高難度新規医療技術等の導入について(図1)

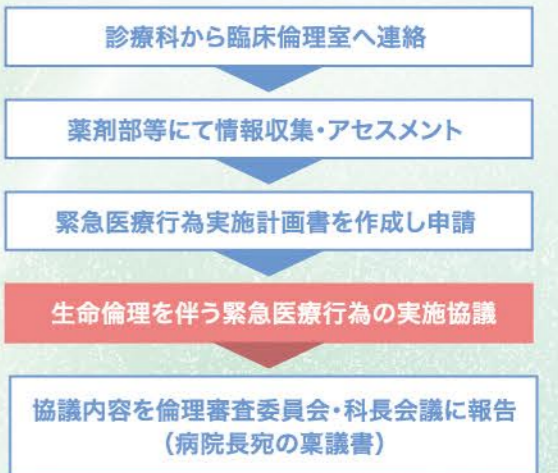


平成28年医療法施行規則の改正に伴い、当室に高難度新規医療技術導入審査部門、未承認医薬品導入審査部門、未承認新規医療機器導入審査部門を設置し各診療科・部からの申請に対応しています(図1)。本院で初めて実施するに際しては、事前に体制確認など準備を要しますので余裕をもって申請して下さい。申請の前に室長または総務課総務係へ問い合わせして下さい。なお、新たに保険収載された医療技術や医療機器の一部には、施設や術者の要件を満たす必要がありますので注意が必要です。

医薬品等の適応外使用については、保険診療においては控えなければなりません。診療上やむを得ない場合には、その根拠と使用方法について検討しなければなりません。特に緊急性がありリスクの高い医薬品等の処方の場合には「緊急協議」を実施しています(図2)。医療法施行規則の改正前から継続して取り組んでいます。緊急協議を要する際には処方の前に薬剤部に相談し、室長および総務課総務係に連絡をして下さい。

臨床では、種々の社会的な問題を抱えての診療や臨床倫理上の問題が生ずる場合があります。これまでは担当医療従事者や診療科・部において抱え込むことが当たり前のようになされていました。現在では病院として臨床倫理の問題に対応するという意識改革が全国で進められています。既に複数の症例について、相談が持ち込まれ協議を行っています。医療界をめぐる変化を的確に捉え医療の場に還元していきたいと考えております。

患者毎の緊急協議の流れ(図2)



病院を支える仲間たち～縁の下の力もち～ Vol.3

病院内のサービスを 多方面から支える

病院長 × 誠仁会
小倉 真治 × 藤山 寿秋・太和田 陽子

小倉 誠仁会という組織を、患者さんをはじめ、職員でもあまりよく知らない人が多いと思いますので、いつから、どういう仕事をされているのか教えてください。

藤山 岐阜大学病院が寄付金を募り、1973(昭和48)年に設立した一般財団法人です。売店や喫茶、レストラン、駐車場などの事業を行い、収益を病院に還元するという組織です。

小倉 大学病院にあるローソンやタリーズの運営をされていますね。

藤山 患者さんや来店される方に配慮したサービスを行っていくために、少しでも便利の良いような店づくりに努めていますが、病院にある店舗ですので、体の不自由な方をサポートできる体制をしっかりと整えたいと思っています。また、レジの処理でも、現在4台ありますが、一番込み合う昼時は、フル稼働で対応しても列ができて並んでいただいている状態ですので、もう少し広めのスペースを確保してレジを増やしたり、並び方を工夫したり、少しでも改善したいと考えています。

小倉 患者さんが利用する駐車場の料金も病院側の意向で値上げしましたが、反応はいかがですか。

藤山 満車の状態が続いていましたので、必要な判断だったと思います。思い切った発想の転換をしていただきましたので、利用しやすい駐車場になってきたと思っています。実際、満車になることはほぼなくなり、柳戸に移転してから一番いい状態にあると見えています。

小倉 クレームは来ていませんか。

藤山 しっかり理由をお話させていただき、病院として必要な値上げだったと理解していただいています。いただいているのも最低限の100円(24時間)です。病院の駐車場を改善していく運営資金に利用させていただいています。

小倉 誠仁会の協力あってのことだと思います。太和田さんはどうしてお仕事をされているんですか。

太和田 仕入れたお弁当を、病棟の職員さんをはじめ、大学の先生方にも届けています。教職員サービスの一環として、先生方が昼食を買いに行く手間を省こうということで司町のころから始まりました。担当して17年になります。そのほか、医師会の会報などの発送及び日々の郵便物を仕分けしたり、患者さんが使われたおむつ代の伝票を切り、入金があったら帳面上で消したりしています。



小倉 岐阜大学病院について感じていることは。

藤山 「全体で一丸団結して築き上げていこう」という意思表示を感じます。私たちが心が温まりますし、信頼して仕事することができています。

小倉 私自身も意識しています。大学病院は「垣根が高い」と言われ続けてきて、どうやったら下げることができるかを考えてきました。今、来ている患者さんが口コミで広めていくと思っているので、患者さんにとって、「垣根が下がっている」と実感していただいているのを期待して、いろいろ企画を考えてきました。大学病院は、これだけ良い医療を提供しているながら、「何となくとつきにくいよね」というのは、患者さんにとってもあまりハッピーなことではないですからね。

藤山 病院としてチーム感がありますね。

小倉 患者さんが感じてくれているといいんですけどね。

藤山 独自に発行した『岐阜大学医学部附属病院のここがすごい』も評判が良かったです。患者さんも自分のかかっている先生に興味があり、目を引いていました。今までなかった本で、業者の皆さんも買っていかれました。大学病院や先生方に興味をわいたり、距離が縮まったりして、患者さんと近づいてきていると感じています。

太和田 3週間入院した時に、タリーズでお茶したり、看護師さんにお世話になったりして、特に不自由もなく、看護師さんも親切で、いやな思いは全くありませんでした。

小倉 患者さんの経験でさらに誠仁会の活動に感じることはありましたか。

太和田 誠仁会が関わっていることを患者の立場で再認識しました。



小倉 今後のサービス展開をどのように考えていますか。

藤山 小倉あんこは、病院の新しいサービスづくりとして、誠仁会と大学病院とコラボレーションしてやらせていただきました。とても好評で、出張でお土産に持って行かれると、一つの話になってお話ができる良いきっかけになっていると聞きます。岐阜大学病院はおもしろいことをやっていると、多方面で刺激になっていて、次の展開も模索しています。

小倉 例えば、マグカップなどのグッズもあるといいのでは。

藤山 どんどん病院と関わって、オリジナリティを出せていけたらと思います。

小倉 岐阜大学のノベルティグッズもいいですね。

藤山 ぜひ、岐阜大学ともコラボできたらいいと思います。クリスマスのイベントなども含めて、今までなかった新しいことが病院全体で増えてきています。「おもしろい」「楽しい」という取り組みに、誠仁会も取り込んでいただきながら、一緒にタグを組んでやっていきたいです。

小倉 これまで何となく知っているような思いでしたが、知らないことがいっぱいありました。今回の記事で皆さんが誠仁会のことを理解していただいて、よりご利用いただけるようになればいいのではと思います。

誠仁会について
詳しい情報はQRコードからもご覧いただけます。



岐阜大学医学部附属病院が寄付金を募り、1973(昭和48)年に設立した一般財団法人。病院がこれまで事業として運営することが難しいとされてきた売店や喫茶、レストラン、駐車場などの事業を行い、収益を病院に還元している。病院内では、駐車場の管理をはじめ、ローソン、タリーズ、介護・医療用品売店、郵便局、移動売店、レストラン「ファイン」、理・美容室「モモタロー」など、幅広く業務を行っている。ロゴマークはサーブちゃん。岐阜を代表する鶏飼の鶏と、誠仁会のSおよび「奉仕する」「役立つ」などの意味を表すServeの頭文字Sで形取り、オレンジ色は鶏飼のかがり火と岐阜大学のスクールカラーを兼ねた橙色としている。




小倉 知らなかったですね。お弁当は何種類あるんですか。

太和田 お弁当は1種類ですが、おかずは7～8種類入って、380円です。

小倉 今度頼んでみます。レストランのファインは岐阜グランドホテルが入っていますね。

藤山 はい。レストラン業務は病院が直接契約していますが、設備などの経費面で関わっています。レストランの経営も厳しく、経費面をサポートしています。

小倉 病棟の移動販売も担当されていますよね。

藤山 患者さんの中には動けない方もいらっしゃるので、少しでもお役に立てれば一ということで、患者サービスの一環でやらせていただいています。利益追求というよりは、患者さんにサービスを還元できるように努めています。郵便局も同様で、病院内にあったほうが便利ですので、補填しながら事業を継続しています。

小倉 ファクス送信コーナーも事業ですか。

藤山 はい、院外処方せんファクスコーナーを担当しています。規則上、病院が業務を行えないことをサポートしており、病院が発展するように貢献していきたいと思っています。

リハビリの専門職 早期リハに**全力!**

言語聴覚士
山中 真理奈



小倉 リハビリテーションの専門職である理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の仕事について、あらためて聞かせてください。

愛宕 理学療法士(Physical Therapist = PT)は、「寝る」「起きる」「座る」「立つ」といった基本的動作や、「歩く」という歩行能力を改善させるために、関節の運動をしたり、筋力のトレーニングをしたり、バランスの練習をするなど、さまざまな動作練習をしています。岐阜大学病院では、脳卒中などの脳血管障害だけでなく、整形外科や小児科、皮膚科や呼吸器内科、救急など幅広く、手術後のリハビリにも介入していきます。主治医の先生から、療養のために体を動かさないうえに安らかにしている度合いを示す「安静度」が上がれば、できるだけ早く体を起こして、早期離床に努めています。

山中 言語聴覚士(Speech-Language-Hearing Therapist = ST)は、脳梗塞などでうまく話せなかったり、話が理解できなかったりする言語障害や、咽頭がんなどで声帯が影響を受けて声を出しにくい音声障害や、上手に嘔めなかったり、飲み込めない嚥下(えんげ)障害の患者さんに訓練したり、助言したりしています。大学病院の特徴としては、補聴器で対応ができなくなった聴力障害の方に人工内耳の調整なども行っています。

樹田 作業療法士(Occupational Therapist = OT)は、脳梗塞や整形外科疾患など、身体機能障害を持った方々に、機能訓練に加えて、日常生活の不自由さを感じている方にリハビリをしています。例えば、足を骨折している方や手が使えない方が、トイレに行けたり、服を着替えられたり、食事ができるようにするための訓練や、動作を助ける自助具などを製作しています。



病院長
小倉 真治

リハビリテーション科
愛宕 良彦・山中 真理奈・樹田 臣弘

樹田 それを言えるだけの根拠をもってやれるようにしたいと思います。

小倉 大学病院なので、データで示すというのは重要になりますね。

小倉 逆に苦労しているところは。

愛宕 退院がすごく早いで、例えば、脳外科の患者さんが、麻痺の症状が少し改善して、これからいろいろなことができるかなという時に回復期の病院に転院されるので、長期的にどれくらい良くなっていくかを追えないということがありますね。

小倉 そういう意味では、回復棟も併設して、回復リハまでやれる「ケアミックス」が整うと完璧ですけどね。

樹田 以前は回復期の病院にいましたが、患者さんがよくなってきて、自宅に帰るというリハビリの醍醐味がありましたが、その反面、急性期でもう少し離床を早くしていれば、もっと回復が早かったのでは感じていました。大学病院では、医師も看護師も一体となって早期リハができていて、認識が変わりました。



理学療法士 愛宕 良彦

小倉 日ごろから大切にしていることは。

樹田 少しでも早く身体を起こすことができるように意識しています。先生方と共通した認識として、寝ていることに一つも良いことはないと考えています。安静のためにベッドで横たわっている臥床という状態であれば仕方ありませんが、安静度を守った上で、起き上がるという離床は、回復するにあたって、大きな利益をもたらします。

愛宕 1日寝ていると、筋力が1.0~1.5%落ちるとされ、健常者でも寝ている状態が2週間続くと、筋力が落ちてしまうことが明らかになっています。筋力低下を予防できるだけでなく、肺炎など合併症のリスクを少しでも減らすことにもつながります。

小倉 共通の患者さんを診ることも多いと思いますが、先生との連携やリハビリでの連携はいかがですか。

山中 理学療法士や作業療法士の方々と協力して、少しでも次の病院に行った時に食べられるように持つていくことが自分たちの役割と思うとやりがいを感じます。

愛宕 多職種で行われるカンファレンスが定期的にありますので、わからないことをあらかじめ担当者に伝えて確認したり、時間があまりないような時は、カルテにメッセージを残したり、直接電話でやりとりしたりして、安静度を確認してリハビリを進めるようにしています。聞いたレスポンスも早く返ってくるので、やりやすい環境です。

山中 ご家族や本人の希望もあり、絶食の方に一日でも早く食べたり、飲んだりすることを始めたい時、主治医の先生に聞きやすく、安心して取り組んでいます。

小倉 医師もリハビリは重要であると思っているからだと思います。皆さんからドクターに進言することはあります。

樹田 例えば、先生にもう少し固定したほうが良いと思い、その旨を伝えた場合、しっかり聞いてくださるので、怖がらずにリハビリができています。

山中 転院が早いと、「これから声が出てきそう」という患者さんを診られないのは残念です。

小倉 医師に「あと2、3日やらせてくれたらよくなります」という意見を伝えることはあるのですか。

山中 相談させてもらうことはあります。

小倉 皆さんに手ごたえがあり、「あと2、3日は必要」という感覚があれば、伝えてもらっていいと思います。



小倉 岐阜大学病院に勤務して、感じていることは。

樹田 手外科疾患を診るハンドセラピーに力を入れてきたので、手外科の専門医がいる大学病院はとてもやりがいを感じています。治療期間の短縮、早期の復職を目指して、早期から動かすための訓練も日々追究しています。手術も見学に入らせてもらっています。どれくらいの強さで縫ったのか、どれくらい動かしても、縫った組織が切れなかなど、術中に確認しています。その上で、自信を持って早期から動かしていくというリハビリに取り組んでいます。

愛宕 以前に在籍した職場は脳神経外科病院でしたので、一つの診療科に特化していましたが、大学病院では、他では見られない特別な疾患もあり、オールマイティーなため、毎日が勉強ですが、やりがいのある仕事だとあらためて感じています。

山中 いろいろな患者さんや疾患を診させていただきましたが、NICU(新生児集中治療管理室)にいる赤ちゃんのリハビリをするとは思っていませんでした。最近では、がんのリハビリテーションも始まり、範囲が広がり、勉強させてもらっています。

小倉 以前から頑張っているのは知っていましたが、さらに頑張っているのを感じました。これからチームの一員として頑張っていきたいと思います。



作業療法士 樹田 臣弘

理学療法士とは

自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職。「寝返る」「起き上がる」「立ち上がる」「歩く」などの日常生活を行う上で基本となる動作の改善を目指す。関節可動域の拡大、筋力強化、麻痺の回復、痛みの軽減など運動機能に直接働きかける治療法から、動作練習、歩行練習などの能力向上を目指す治療法まで、動作改善に必要な技術を用いて、日常生活の自立を目指す。

言語聴覚士とは

「話す」「聞く」「表現する」「食べる」などの障害に対して訓練や指導、助言などを行う専門職。脳卒中後、うまく話せない、話が理解できない、文字が読めないといった「言語障害」、咽頭がんなどで声帯が影響を受けて声を出しにくい「音声障害」、上手に嘔めない、飲み込めないといった「嚥下(えんげ)障害」など、コミュニケーションや食べる障害に対応している。人工内耳の調整なども行う。

作業療法士とは

身体が不自由な人や精神に障害のある人をさまざまな作業を通じて治療、訓練し、社会復帰ができるように手助けする。運動や感覚・知覚、心肺や精神・認知などの心身機能に関する「基本的動作能力」、食事やトイレ、家事など日常で必要となる「応用的動作能力」、地域活動への参加、就労・就学などの「社会的適応能力」を維持、改善し、「その人らしい」生活の獲得を目標としている。



第9回 話す会 薬剤部

テーマ 病院薬剤師のお仕事

当院の薬剤師の仕事として、調剤、製剤、病棟での薬や病気についての説明、情報の収集・発信、治験についての業務があることを説明しました。

また、当院ではチーム医療を意識して動いており、医師、看護師、薬剤師といったスタッフのコミュニケーションが活発であることを強調しました。

薬剤部にはお薬相談室があり、薬のことなら何でも無料で相談を受け付けていますが、まだまだ利用する方が少ないため、積極的に利用してほしいと説明しました。



第10回 話す会 泌尿器科

テーマ 前立腺の病気、症状、診断からダヴィンチ手術まで

前立腺の役割や病気の種類について説明しました。中でも前立腺がんについて詳しく話し、男性のがん罹患率トップであり、その理由として、高齢者のがんであること、食生活が西洋化したこと、検査法が進歩したことを説明しました。

また、当院では昨年より、最新の手術支援ロボットであるダヴィンチを導入しており、ダヴィンチを使った根治治療を行っていることも話しました。

第10回にわたり開催してきた話す会も今回で最終回となります。次なる企画にご期待ください。



ボランティア 感謝状贈呈式

当院ではボランティア活動を長時間行っていただいた方に感謝の意を込めて、病院から感謝状を贈呈しています。

小倉病院長からボランティアの方々へ「今後も最高の患者サービスが提供できるよう頑張りましょう」と謝辞と激励の言葉を掛けられ、廣瀬看護部長からは、「ボランティアは、精神力と体力のいる仕事。寒くなってきたが、体を大切にしてほしい。」と労いの言葉がかけられました。



贈呈者/山田 末吉さん・曾根 憲昭さん・森 靖子さん・荏開津 裕美さん
高橋 しな子さん・角田 健三さん・渡辺 芳枝さん

クリスマスパーティー & 忘年会

平成29年12月18日、岐阜都ホテルにおいて岐阜大学医学部附属病院クリスマスパーティーを開催しました。職員400名近くが参加し、病院長と学生さんのJAZZ演奏、職員による催しやゲームに歓声を上げ楽しみました。当日は、スペシャルゲストとして岐阜県出身のスター「ミスターマリックさん」を招いて、超魔術を披露し会場は驚きと感動で大いに盛り上がりました。



病院長の演奏が会場を魅了しました!

アクセスマップ

岐阜大学

- 医学部附属病院
- 大学院医学系研究科
- 医学部医学科
- 医学部看護学科



自家用車でお越しの方は、外来患者駐車場が約600台ありますのでご利用下さい。(24時間利用可)
※大学病院前交差点よりご来院ください。

【駐車整理料金】

区分	駐車時間(入替時間)による料金				備考
	30分まで	60分まで	60分~90分	90分~24時間	
外来患者	無料			100円	加算金額 500円/24時間
・入院当日の患者及びその付添者 ・退院当日に来院したその付添者 ※入院期間中継続駐車している場合の退院日は含まない。	無料			100円	※入院期間中の駐車は料金が発生しますのでご連絡ください。
一般外来者 ※面会・お見舞い 他	無料		200円	加算金額 100円/1時間 (上限500円/24時間)	加算金額 500円/24時間

- 認証機設置場所 / 平日(8:30~17:00)1階会計窓口・入院センター・退院窓口・その他の時間1階夜間受付
- 事前精算機設置場所 / 1階エントランスホール・1階時間外出入口

【病院へのアクセス】

鉄道	JR	東海道本線 「岐阜駅」で下車	
	名古屋鉄道	名鉄本線 「名鉄岐阜駅」で下車	
バス	岐阜大学・病院線	約30分	
	直行便清流ライナー	約25分	320円
	岐南町線	約40分	
タクシー	JR岐阜駅 名鉄岐阜駅	約20分	約3,000円